

中心地域整備に関する調査特別委員会（第11回）

日 時 平成28年9月26日（月）

9：00～10：21

場 所 議会棟 第2会議室

出席者 委員長、副委員長、委員9名（欠席：なし）（傍聴者：なし）  
説明員 中村副町長、木下企画課長、青葉農林課長、浅田専門監、実延参事  
書 記 井川主事、岩崎事務局長

○山本委員長 おはようございます。ただいまより中心地域整備に関する調査特別委員会を開会いたします。昨日は日南町の防災訓練が行われまして、残念なことに防災ヘリが来ませんで、ちょっと訓練の内容も縮小されたというようなことでしたが、日南町で一番想定をされる大雨による災害ということで訓練をされまして、より実戦に近い訓練が出来たと思っております。本日は、前回前々回でしたかお願いをしておりました道の駅のアンケートにつきまして、結果の集約ができたということでありますのでその報告をしていただきます。また、売上等の状況について、そして冬期間の商品の取り備えについての調査を行いたいと思っておりますのでよろしくお願いをいたします。それでは座って失礼をいたします。まず最初に道の駅のアンケート結果について報告をお願いいたします。中村副町長。

○中村副町長 改めまして皆さんおはようございます。今日は中心地域整備に関する調査特別委員会の第11回ということですがけれども、今までの4月以降からのも含めて委員長もおっしゃられましたように、アンケートも含めたりあるいは売上等も含めて経過報告をさせていただければと思っております。ちょうど今長雨が続いておりまして稲刈りの最中でありましてけれども、なかなか思うようにならんというような状況でありますけれども。今後も含めて米等も売れているようでありまして、さらにこれの展開を詰めていければなと思いはありますけれども。3番にもありますけれども冬期間の事もありますし、いろんなイベントを展開してきておりますけれども、中の方では経営者会議を月1回しておりますけれども、そういったところも具体的に展開の中の努力はしておりますけれども、思うような売上に繋がっていないという側面も一部はあろうかなと思っております。初年度という事もありますが、今年の実

績を見ながら来年度以降に繋げていく形をどんどん固めていきたいと思っておりますので、議員の皆様には引き続きご指導ご意見をいただきますようお願いをして冒頭の挨拶にさせていただきたいと思っております。案件の内容につきましては、それぞれの担当の方で報告をさせていただきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いしたいと思います。

○山本委員長　　そうしますと報告の方は。浅田専門監。

○浅田専門監　　それでは企画課の方から、最初に道の駅のアンケート結果、並びに資料に付けておりますけれどもどういったところから来客があったのかというところも含めてご説明をさせていただこうと思っております。タブレットの2ページからご覧いただきたいと思っております。こちらには、道の駅のこれまで4月オープン以降主だったイベントの写真も付けておりますけれども。来場1万人セレモニーを4月28日に行ったところでございますし、それから6月の食のバザールに合わせて来場5万人記念のセレモニーもしております。それから、地震の被害のあった阿蘇の方からチャリティーの猿回しというのが来たりというのが6月2日にありますし、7月31日に道の駅の100日祭ということで開催しておるということ、いろいろなイベントをこれまでもやってきておるということをご承知いただけたらと思っております。それでは次にタブレットの3ページ。お客様からの要望という事でここにはあげさせていただいております。実際には道の駅の高評価というような意見も沢山いただいておりますけれども、ここでは主に皆様からどういったことをして欲しい、どういう道の駅にして欲しいというようなご意見をいただいたものを今回はカテゴリー別にあげさせていただいております。1つは商品、また右のページは看板、店舗、レストランというふうな区分けにして今回は出させていただいております。また、それに対する対応というもの、出来るものは対応していったというところの部分も書かせていただいております。例えば商品であるところ上の方からですと、野菜がなかなか少ない、これはオープンからの要望というか、目安箱を置いたところで書いていただいたものを入れていただいたものですか。オープン当初なかなか生鮮品が出なかったという、ちょうど端境期という事で商品も少なかったという事もあるんですけれども。山菜物は沢山出たんですけれども、生鮮の野菜がなかったということでそれに対するご意見もいただいております。後でもご説明しますけれども7月8月になってからは野菜も出ておまして、その売り上げがアップしたというようなどころもまたご説明させていただきますが。生産者への

声掛けをして、なるべく道の駅に出してください、沢山売れますので出してくださいというようなことをお願いしていったところでございます。なかにはわらびの灰が欲しいだとか、それからまだトマトは出来てないんですかというような意見も沢山ありましたけれども。他にも商品の1番下の方には、ドレッシングの詰め合わせが欲しい、例えば贈答に使いたいというような意見だったんですけれども、そういった事にもギフト用の箱を作りましてそれを詰め合わせをした贈答品を作って販売もさせていただき、お中元にも間に合わせたというようなこともしております。それから右のページにいきまして看板と書いてございますけれども、看板ですが道路標識を鳥取県の方にご協力をいただいて道路に付けさせていただいております。近くには来たんですけども、道の駅は県道からちょっと奥ばつとるといいますか前に駐車場があつてなかなか隣のコンビニエンスストアの看板等とかぶつたり、それから沢山前に電柱等もあつて、なかなか気づかれなかったというお客様もあつたということで、道の駅をもっとはつきり近くまで来たらわかるようにというご意見も沢山あつたようです。実際には道の駅を利用される方が、ある程度お年を召した高齢者の方が平日に来られるということもあつたりしまして、道路標識と混同してなかなか道の駅がここにあるんだよというところがわかりにくいというような意見もいただいております。それから店舗ですけれども、店舗は最初スタッフの対応といいますか挨拶が少ないとかそういうこともありましたけれども、指導等によりレジのスタッフも入ったら皆さんに挨拶が今はしっかり出来ているというような状態になっておると思っております。それから細かい事ですけれども募金箱を置いたらどうか。ごみ箱は当初あまり置かないという方針でやっておつてですね、ごみ箱は実際にはそこで食べたり飲んだりしたもののごみの始末はどうするんですかということですね、ごみ箱がやっぱり欲しいということで、実はレストランの入口の所には、レストランの入口といいますかレストランと直売所の間の入口ですので下手の入口といいますか、そちらの方には実際にはごみ箱を設置しております。ちょうど目安箱を置いたりしておる所なんですけれども、そこには設置しておりますのでそこをご案内はしておつたんですが、もう少し増やしたらどうかというような意見を今いただいておりますので、それについては今ちょっと検討しておるというようなところでございます。なるべくごみは自分で、出したごみは自分で持って帰っていただくという方針にしておつたんですけれども、そういう声も大きいですので、その辺は検討させていただこうと思っております。そ

れから道の駅で買い物をされた方、店舗の1番下になるんですけれども、ビニール袋より紙袋にして欲しい。これは環境に配慮してというようなところで紙袋にして欲しいという意見なのか、もしくはもう少し見栄えのいい袋にして皆さんへのお土産ということで使いたいのかというようなところ、ちょっと真意の方は様々な意見で詳しくそこまで書いてなかったのだからわからないんですけれども、そういったお土産にも使いたい、それから環境にも配慮して紙にして欲しいという意見であれば、簡易な紙袋を購入してスタンプを押したようなもので対応も出来たらと今ちょっと考えております。それからレストランですけれども料理の種類が少ない、それから美味しくないというような意見も中にはありました。最近もレストランもですけれども、ここ7月8月は実際には上り調子になっておりまして、若干お客様も売り上げも増えております。後でご説明出来ると思います。というような状況で、中にはおいしいということでリピーターという方もおられるようでして。ですので、美味しい美味しくないというものは、主観的なものもあるのかもしれませんが、美味しいという評判が出るような努力はしていかなければいけないということでスタッフは頑張っておるということでございます。それからここにもありますけれども、挨拶がないということもありましたので、この辺についてはスタッフに指導したというようなことを聞いております。それでははぐっていただきましてタブレットの4ページになります。これにつきましては、オープン4月22日から6月20日にかけて、買い物をされた方に旅行券が当たりますよというキャンペーンをしております。それで何所から来られたかというか、住所を実際に書いていただくようにしておりますので、それに基づきまして何所から来られたかというものを集計させていただいたものでございます。左に数字をあげておりますけれども右にグラフを付けておりますね、そちらの方がわかりやすいと思いますのでご覧いただけたらと思いますが、約半数の方が鳥取県から来られておりました。これは6月20日までの数字ですけれども。それとは別に日南町から13%の方に来場をいただいておりますということで、県内からは63%あまりの方が来ていただいておりますということになります。あと続きますのが近県であります島根県であるとか広島県・岡山県というところになります。実際にはこれは旅行券でございます。実際にもう旅行も行っていただいたんですが、しまなみ海道に行ってもらう旅行。道の駅が発着ということでしたので実際にはよその方は紙はもらったけれども書いてないという可能性もあると思います。実際にはそのアンケートといいますが応募されていない方も多数い

らっしゃるんじゃないかということで、また後で聞き取りをした数字も載せておりますので、そのあとでご説明をさせていただこうと思いますが。実際にはこのような方々に来ていただいたのかなと思っております。それからほぐっていただきましてタブレット5ページになります。これは先程のデータの詳細についてのもので、またご参考に見ていただけたらと思うんですけれども。実際にこれは住所も書いていただいておりますので、どちらから来ていただいたかということが詳細にわかると思います。1番左の上に赤で日南町と書いてございますが、日南町でもどちらの方が応募されたかというところがこれでわかっていただけたらと思います。やはり多いのは日野上、それから石見というところですが、若干地域によって人口の差もあろうかと思っておりますけれども、若干少ないところもあるのかなと思っております。鳥取県では当然ながら米子市の方がやっぱり人口も沢山おられる近隣の市という事で、やはり多ございました。半数以上の方が鳥取県でも米子市の方が来ていただいておりますというデータが見て取れると思っております。近県でいいますと広島県の実は近くの広島市の方が、人口が多いのかもしれませんが多くの方に来ていただいているというような印象をとってもらえると思っております。それではまたほぐっていただきましてタブレットの6ページになります。これは観光協会のもので実際に道の駅に出向きまして、来られた方に聞き取りをさせていただきました。1番左に日にちを書いておりますが8月5日から8月9日までの約1週間ですね。この間、時間とすればその隣に書いております9時から10時とか、9時から12時とかというような時間帯に来られたお客様に実際に聞いて、どちらから来られたとか何人で来られたのかとか何を目的に来られたのかというようなものを実際に聞き取りをさせていただきました。それを県別に上げております。鳥取県・広島県・島根県・岡山県というふうに、それをちょっと県別に見ていただけたらと思うんですけれども。この中で1番特徴的な数字というのが、鳥取県も1番当然ながら沢山来ていただいておりますが、広島県の方に多数来ていただいております。やはり広島尾道ができて、米子広島間を通られるお客様というのは時間的に余裕がある方々、それからあちらは高速道路になりますので有料道路になりますので、それより時間的に余裕がある方は周りを見ながらのんびりドライブがてらというような気持ちもあるのかもしれませんが。やはりこちらの道を通られるのはやっぱり広島から米子に行くとか米子から広島に行くとかいう方、広島県の方が多いいのかなというふうなものがこれで実際にはわかったところがございます。平日には広島の方が

23%来ておられるという数字もここでわかっていただけだと思います。実際に目的はなんですかということも、聞き取った中でわかる部分は書かせていただいておりますが、例えばどこに行くとかというのは安来伯太とか書いておるのは安来とか伯太とかに行く目的で使ったんですよとか、何人で来られたかというのは家族5とか書いてあるのが家族で来られておるとかいうことでございますけれども、基本的にはドライブがてらに立ち寄られたという印象がこれでこの時受けた印象的だったという事をこの時調査をした方々からの言葉にありました。とりあえず道の駅のアンケート結果についてはここで説明を終わらせていただきます。

○山本委員長　　ただいま説明をしていただきましたが質疑意見ございますでしょうか。よろしければ引き続き、売上等の状況についての報告をお願いいたします。浅田専門監。

○浅田専門監　　引き続きまして、売上等についてご報告させていただきます。タブレットの7ページになります。これはまとめたものですが、売上とレジ通過者、それから施設利用者をあげたものでございます。上の段の左に直売所・レストラン・トマト加工とありますが、それぞれの売上、そのうちのEVI、1円寄付していただいたもの。それからポスレジを導入したところにつきましてはレジ通過者もあげております。4月ですと直売所の売上げが8,099,249円ということで、ずっと5月6月7月8月と見ていただけたらと思います。その内のその下に書いております17,905円というのが、1円を寄付していただいた分の金額ということです。ですので直売所ですとこれが売れた点数という事になるかと思えます。それからその下がレジを通過された方の人数ということで、これはそのまま人数ですので2.3を掛けておりませんので、これに2.3を掛けた数字が道の駅を利用した方ということでご理解をいただけたらと思います。その中で下に黄色で合計をあげておりますけれども、4月の合計が売上ですと10,954,471円という事で、4月5月につきましては最初のオープン特需といえますか、沢山の人来ていただきましたので、ここは多くの方に来場いただきました。次に6月7月になりますと、若干梅雨時期は、やはりドライブとかでの外出される方の減少ということもあろうかと思えますけれども、お客様が若干減りまして特に6月あたりは少ない数字になりましたけれども、7月8月ということでまた梅雨開けを迎えたり盆があったり、それからドライブにいい時期になったということで皆様の外出が増えたことあろうかと思えますけれども、売上げの方も伸びてきておるとい

ろでございます。その中でもレストランも最初に言いましたように6月が下がったわけですけれども、7月8月ということでそこもコンスタントに売り上げの方を伸ばしておりますので、またこれから期待するところで秋の行楽シーズンに向けての数字というものをまた期待するものでありますけれども。実際には道の駅の売上9,800万というものを目指しておったわけです。今回この数字の推移はどのようになっておるのかと。一応今の目標を立てておる中では約80%の達成率でございます。ですので若干思っておった数字より少なかったというのが現実です。実際には12月から1月にかけての冬期間はかなり来客数及び売り上げの方が減少するのではないかなという見込みは立てておって、この8月あたりは実際には1,500万ぐらいの売上を見込んでおったわけですけれども、そこまでちょっと到達しませんでした。という事でトータル的にも売り上げの目標としましては今80%ぐらいのところを推移しておるということだけをご報告させていただきたいと思います。この表の下の道の駅の施設の利用者数をここにはあげております。その中には加工実習室であるとか多目的ルームであるとかそれから軒下の利用。お店が来て店舗を出してどれぐらいの店舗数が来たのかというようなところもあげております。7月まではかなり沢山の方が多目的ルーム等を利用していただいて、それに伴い施設使用料等も入ってございましたけれども。8月は、なかなかいろんな出店の方も忙しい時期なのかもしれませんけれどもちょっと少なく、軒下の利用件数も1件にとどまったりとかいうことで、これからまた利用を促しまして、沢山の人に誘客をしていくという方向で考えておるところでございます。それからはぐってもらいましてタブレットの8ページになります。先程の数字見ていただきましたけれども、その数字をグラフ化したものがこれになります。棒グラフの方の青い部分が直売所、オレンジ色がレストラン、それからねずみ色のところがトマト加工ということで。上の折れ線グラフの方がレジ通過者の人数を表したものでございます。これも4月5月、当然4月は10日ほどしかございませんでしたけれども、沢山の方にオープンの際に来ていただきまして、沢山の売上等もありました。5月はゴールデンウィークもあり、それからオープン直後ということもあり沢山の人に来ていただきました。その後、6月に下がって心配したわけですけれども、7月8月ということで徐々にまた回復しておりますので、またこの9月の推移を見ていきたいと思っております。それからはぐっていただきまして直売所の品目別の売上金額ということをつけさせていただきました。実際に直売所でこういったものがどのように売れているのか

というものを付けさせていただいたものでございます。食品から野菜、飲み物、手工芸、それからその他まで、実際にはこれまで8月までの累計としましては4,000万円あまりの売り上げがあったと報告を受けております。それぞれの品目の構成比の方を右に付けておりますけれども、それをグラフ化したものが次のページにありますのでご覧いただけたらと思います。タブレットの10ページになります。直売所の品目別売上比率ということであげさせてもらっております。左の円グラフが、これが8月だけの比率でございます。右の円グラフは8月末までの、4月オープンからの累計の数字で比率を出したものでございます。ここで目立って違うところは野菜の数量が増えておる。8月だけを見ていただきますと野菜の売り上げが上がっておる。当然これは生鮮が沢山出てきた。それから4月5月は沢山お土産品も出ておりましたのでそちらの方の食品ということで、右のグラフはそちらの方の比率が高かったものでございますから、そちらの比率が上がったということでございます。飲み物とか手工芸このあたりはずっとコンスタントに売れておりますので、ここの比率はそう大きく変動はございませんでした。それからあとお米等穀類ということで8%9%ですので、ここも大きな変動はございませんが、店舗ではこのあたりが1番の売れ筋ということでご理解いただけたらと思います。当然果物とか花木というものは少のうございますので、この辺はちょっと売上としては沢山あがってこないということでございます。以上が売上についてのご説明です。

○山本委員長　　ただいま説明をしていただきましたが、質問意見ございますでしょうか。近藤委員。

○近藤委員　　売上レジ通過者施設利用者のところですが、7月8月のEVIの売上と通過者の人数が比例しとらん数字が出とるもんで、何か特別な原因でもあったのかなと思って。要するに8月は売り上げが伸びておるのにEVIの売り上げが約半分に落ちておるということで、7月に安い単価のものが沢山売れたということなら別なんですけれども、他に何か要因を把握されているのか。何か原因が考えられるのか教えたいと思います。

○山本委員長　　浅田専門監。

○浅田専門監　　1つには、お土産品の品目をかなり減らしております。7月8月にも若干お土産品というもののコーナーを減らして野菜の方を増やしておりますので、1人当たりの単価がちょっと落ちております。そういった関係で若干売上は少なくなっ



たけれどもというようなことはあろうかと思いますが。EVIは売れた点数でございますので、8月は売上点数は伸びたというのはやはり生鮮。トマトとかそういった野菜物が沢山出て。逆ですね。下がってますね。確認させてもらいまして、ご返事させていただこうと思います。すいません。

○山本委員長 後ほどということによろしいですか。大西委員。

○大西委員 ずっと4月から毎月のデータ出たんですが、たとえば道の駅として毎月の収支は取っておられるのでしょうか。例えば、売上に対して入金出る金そしていくらの経営の数字なのか。それはどうなんですか。

○山本委員長 中村副町長。

○中村副町長 全体的にはもちろん経理はしております。ただ支出の方が会社全体で経理をされておるということもありまして、ちょっと月遅れの数字でないとは出てこないということはあるかもしれませんが。基本的には収支についての会計経理はできておりますし、報告を受けておるところであります。

○山本委員長 大西委員。

○大西委員 道の駅の当初計画で収支計画も出されておられます。それに対してどの程度の範囲なのか。例えば20%くらい差があるのか。例えば1ヶ月2ヶ月遅れと言われるかもわかりませんが、4月5月の経営数字というものは揃っておられますか。もしよかったら教えてください。

○山本委員長 中村副町長。

○中村副町長 ちょっと6月の経理までの実績ですけれども。基本的には4月が若干トータル的にはです、経常利益というところではありますが、4月が若干マイナスが200万円程度です。5月がプラスの200万円程度ですね。6月が100万円程度のマイナスということでお聞きしておるところであります。以上です。

○山本委員長 よろしいですか。大西委員。

○大西委員 次に戦略の方の売上を変えられましたよね、年間2億円から1,400万円ぐらいですかね、1億。それはなぜ変えたんですかということです。逆に当初目標であればそのまま2億に対して、そして差は差としてやっていかないと。ここにある直売所・レストラン・トマト加工ですけれども、以前は外部販売も入れておられたと思うんですが、それを入れた状態で2億の計画でやれたので。なぜ外部販売を外されたのか。

○山本委員長 浅田専門監。

○浅田専門監 道の駅全体で販売した金額ということで2億の当初は目標はあげておったわけですが、EVIの報告は受けるんですが、出店等で軒下での販売での事、実際にそこまで業者さんに聞く事、把握する事が出来なかったということで、そちらの出店販売、いわゆるEVIは報告いただいてお金をいただくんですけども、そちらの方の金額が把握できないということで。そちらの方の金額を外させていただいた。いわゆる食のバザールとかその他の金額も当初は入れておったんですけども、そちらの出店販売をされる所、例えばフリーマーケットの売上だとかそういったものはなかなか把握しにくかったという事もありまして。ですので、きちっとした数字を把握する所を指標にあげさせてもらうということに、こちらの方でさせていただいたということでございます。

○山本委員長 大西委員。

○大西委員 当初ですね、外部販売でも1品1円いただこうと。ただしややこしいという事で、もう販売される方にお任せしようということになったと思うわけですね。そこでEVIでお客さんから預かった1円を有効活用する。EVIの数字が出てないわけですね、これには。外部販売、今まで食のバザールであるとかいろんなものの金額はどこに出てるんでしょうか。

○山本委員長 浅田専門監。

○浅田専門監 6月に行いました食のバザールにつきましては、実際には道の駅のPOSの方に入金していただきました、それだけは。直売所のところに直接入金していただきましたので、ですのでPOSだけはそちらの方に入っておるんですけども。他の軒下を使ったものにつきましては、タブレットの7ページにあります、その下に。売れた点数もあげておりますけれども。1番下の施設使用料それから道の駅でのEVIをそちらの方にあげていただきましたので。食のバザールだけは道の駅のPOSレジの方で管理させてもらっておりますけれども、その他のEVIにつきましてはこちらに直接いただいたものは、こちらにあげております。ですのでEVIの全体額を見るとしますとタブレット7ページの黄色の中の、上の段ですね、内EVIと書いてあります。そこプラス道の駅の施設のEVIを足していただいた数字が、これが全体のEVIの数字ということになります。

○山本委員長 よろしいですか。その他ございますか。坪倉委員。

○坪倉委員　最初のアンケートの報告のところでも野菜が少ないとか色々あったんですが、現時点といいたいでしょうか7・8・9月、夏場の野菜の豊富な時期なんですけども、今の時点でお客様の声というのはどういう状況なのか教えていただきたいと思えます。併せて、日南トマトの販売状況について説明をお願いします。

○山本委員長　青葉課長。

○青葉農林課長　夏場の野菜につきましては相当の種類量ともに出ていたと思っておりますけれども、潤沢に山盛りという状態ではないんですが、そこその品目量ともにあったと思っております。ただ7月8月を過ぎまして、当時はトマトを中心に農家さんの方も沢山出していただきましたし、それと併せて JA からのトマト生産部からのものも用意をさせていただいて、進物への取り扱いとか、それからその場での小売りとかというような取り組みをさせていただきました。現状的にはちょっと9月後半になってまいりまして、実はまた夏野菜の端境が来ておりまして、今から秋冬野菜に向けてどうしてもなじみの野菜が今少ない状態になっております。それからトマトも一応農家さんから出していただけるトマトと、それからトマト生産部からのトマトにつきましては、分けて販売をいたしております。ちょっとデータの、その詳細については後ほど報告をさせていただければと思いますが、状況的には内訳的にはわからない状況でございます。売上だけという数字はありますのでその中に両方入っているということでございまして、6月から8月までの売上データでトマトが96万円ほど売っております、現状には。ただ計画値としてはもう少し高めに設定しておりましたし、トマトももっと買っていただきたいという気持ちはありましたけれども、現状には販売の動向的にはそういう状況でございました。

○山本委員長　よろしいですか。坪倉委員。

○坪倉委員　農産物直売所として新鮮でおいしい野菜の販売ということを目指しておるわけですが、アンケートの対応のところにも生産者への声掛けを継続すると表現してあります。この生産者というのは会員のみのことでしょうか。いわゆる昨年からの野菜の生産販売に向けての仕組みというのはかなり努力されてきたわけですが、もう少し品揃え、量ともにあった方がいいのかなと思っております。その辺で底辺を、生産量を絶対量を増やす事の取り組み、それから検討の課題の1つでもありました集荷体制について。バスでの貨客混載という事も検討されてはおると思えますけれども、そういった集荷体制についてどのような検討をされておるのか。

○山本委員長 青葉課長。

○青葉農林課長 やはり出荷者の底辺を広げるということは非常に大事だと思っております。現在、昨秋から、推進をいたしまして生鮮・手工芸、併せて149名の登録となっております。先般出荷者の状況を見たところ約110名ぐらいが、現在道の駅に1品でも出品をしてくださった方がいらっしゃいます。この149人を増やしていくというのがやはり1つの目標ではございますけれども、現在出荷者の皆様と話をしておりますのは多品目生産の方を力を入れていただきませんかということで。どうしても得意種目が1個2個しかない農家もありますので、できましたらもう少し多品目の生産それから商品化という事をお願いをしたいと思っております。先般も出荷者協議会の皆様ともお話をして、秋冬野菜についての課題、道の駅としての課題というものも共通認識をしようという取り組みをしております。10月4日に役員会をして、秋冬野菜の出荷についてどうやるかということを検討するようにしております。それから集荷でございますが、現在は道の駅まで農家の皆様に持って来ていただいております。先般、MA との話し合いの中で町内集荷に対する MA としての案をいただいております。集荷ができる形を取れないかということで現在検討しております。できたら MA としては集荷便を出したいというような意向も聞いておりますので、その集荷の仕組みをもう少し検討してから皆様方にお知らせしたいと思っております。

○山本委員長 坪倉委員。

○坪倉委員 もう1件、加工実習室の利用ですけれども。33件の利用なんです、実日数と実利用団体について説明をお願いいたします。

○山本委員長 浅田専門監。

○浅田専門監 詳しい数字はいただいております。これはまた報告させていただきます。今あげておるのは実団体の数字になります。1日何件使ったかというだけの数字でございますので、人数等はまた。

○坪倉委員 延べでしょ。

○浅田専門監 延べです。

○坪倉委員 実団体じゃなくて。

○浅田専門監 延べです。

○山本委員長 坪倉委員。

○坪倉委員 加工実習室を使うのに、スチームコンベクションとブラストチラーそ

の他の機材がほとんどない、例えばボールから包丁から全て利用者が持っていかなければならないという状況で非常に使いづらいという意見がありますし。大きなコンベクションオープンにしても家庭にはない機械ですから、いきなり多くの量大量のものを加工することに経験がない人が挑戦しようと思ってもなかなか使いづらい。専門的な知識を持った指導者がいてくれればいいんですけれども、そういった指導体制も十分でないと思っておりますが。その辺の利用、いわゆる町民がそこを活用して加工品を製造しようということに向けて、簡単に臨めないという状況があるようですけれども。その辺のことについて改善を求めたいわけですけれども、どうでしょうか。

○山本委員長 浅田専門監。

○坪倉委員 道の駅の担当者の中で機材の使用について、たとえば何キロのものを作るにはどれぐらいだとか、温度設定とか詳しく分かっておるとか、あるいは冷却にしても冷蔵にしてもこれだけの量は何分で冷やせるとか、というような事が詳しく分かっておる職員がいますか。

○山本委員長 浅田専門監。

○浅田専門監 実は1番詳しいのは駅長なんですけれども。実際にはそれは個々の商品によって違ってきますので、この前も実際には町内で自然薯作られている業者さんが来られてプリンを作りたいという事で試行錯誤もされておったようです。要は、そこは1つの実験室ではないですけれども加工実習室という事で。これからの製造に向けた取り組みに向けた試験的な場でもあるんですよということの位置付けにしておりますので。実際にはその使用、取り扱いの使用のレクチャーは道の駅の人、例えば駅長だとかそれからそこに勤める地域おこし協力隊の者も使えるように業者の方から指導を受けておりますので。使用方法についてはその場で聞いていただければ出来るような体制をとっておりますので、後は皆様方に実際に使ってもらって、どのような味付けであるとかどのぐらいの温度をかけてどれぐらいにしたらいいのかというところですね。試験的にやって見てくださいよということで実際に使って見てくださいますよというところで今使ってもらっているところでございます。今年はアドバイザーの契約の中で、これまでもお世話になったキースタッフの中で、今年はその中のレトルト窯を使った料理または1次加工というところを教えて欲しいということで。実際に11月から集中的に、8回ぐらい、これから講習会をするようにしております。また皆様方にも町民の方に募集等も行おうと思っておりますけれども、その場で実際に使って

みましよう、こういったものを作りたい人がいたら聞いてみましよう、というような事もやろうと思っておりますので。そこで実際に使ってもらって商品の方の開発をしていただくということを今考えております。

○山本委員長　　よろしいですか。浅田専門監。

○浅田専門監　　実際に持ち運び、皆さんが使う物で持ち運びがなかなかできないという物は、若干揃えていただきました。ただ衛生的になかなか難しいような物についてはやっぱり持って来てくださいという事にしておるようですけれども。基本的な、ボールだとかそういった物も、必要部品は取り揃えておるということを聞いております。最低限の物は取り揃えております。

○山本委員長　　よろしいですか。久代副委員長。

○久代副委員長　　さっき青葉課長から話がありましたけれども、149名の出荷者が登録されていると、出荷者協議会に。実際に1品でも出された方が110名でしたかね。

○青葉農林課長　　データが7月のデータでちょっとお話してますんで。8月のデータはまだちょっと把握しておりませんので。すいません。

○久代副委員長　　この後の冬場の出荷の話との関係もあるのですけれども、その出荷者協議会のアンケートは逐次それぞれ協議会で会議をされていると思うので、今回はお客さんの声でしたけれども実際に出荷される人が今の道の駅全体についてどういう話をされているのかなということと。もう1点は品目別売上比率がありますけれども、これの今現在ざっくり110名の方の出荷の中のそれぞれ該当する出荷者の明細がわかれば。例えば食品関係ですね、それから野菜関係、飲料関係、手工芸品、穀物のお荷者の件数がわかれば教えていただきたいと思います。

○山本委員長　　項目別のお荷者の登録件数ということですね。

○久代副委員長　　出荷者の件数。例えば、穀物は何名何社の方が出荷されているのか。出荷者ですよ。所詮110人のうちを案分する話ですから。兼ねておられる人はおられると思いますけれども。後でもいいです。

○山本委員長　　後ほどでも結構ということですので、もしまとめていただければ提出をお願いいたします。

○久代副委員長　　あと1件、夏の8月の聞き取り調査の中でやっぱり県境の町として、広島・島根・岡山、たまたま岡山県はなかったわけけれども、むしろだんだん米子の方から上がって日南トマトということで下から上がってこられる人も期待もあるわ

けだけれども、そうはいつでも下の方にも道の駅もあるし。広島・島根がやっぱり県境の町として、むしろ下から上がってこられる方よりもここを通過してこちらに寄られる方の動向が強いかと現時点で思っているんですけれども。それに対する戦略というか、ちょうどバイパスもあっちにもあるわけだけでも。今回の聞き取り調査の結果から見て、やっぱり集客を増やすにあたっての、広島・島根のお客さんへの戦略をやっぱり考えないといけないじゃないかなと。県境の岡山県も含めて思いますけれどもどうでしょうか。

○山本委員長 浅田専門監。

○浅田専門監 実は8月に、今年、地方創生の事業を使いまして、広島・岡山へのタウン情報誌に見開き2ページに掲載いただきまして PR もしておりますし、それから広島市内のアストラムラインの中吊り広告にも実際にはさせていただきました。それから今準備しておるのは広島市内を走るバス、安佐北区の方に向けて走るバスに、1台ラッピングしまして、道の駅の PR をする予定にしておりますので。これからもやっぱり広島・島根・岡山も含めてですけれども、そちらの方からの誘客を増やすことも大事だろうということで、そういった取り組みを今しておるところでございます。

○山本委員長 中村副町長。

○中村副町長 併せてですが、PR するやり方というかあり方も検討したいと思っております。と言いますのが、例えば雑誌に何月号に1回載せてくださいよというやり方を今までできておりましたけれども、それをできるだけ年間契約にするとかです、そうするとコスト減、1回あたりのコスト減というところにも望めるので、そういうこともこれからの話になりますけれども検討していきたいと思っております。

○山本委員長 青葉課長。

○青葉農林課長 それともう1点は広告の打ち方なんですけれども。当然広告、新聞広告になんかにしますと経費が掛かりまして。エリアをちょっと絞った広告を打とうじゃないかということで、現在米子市というのは、やはりうちの町の道の駅に来ていただけるお客様の大多数、米子市というのが1番のターゲットだと思っております。米子駅前を部分的に、そこを中心に1回チラシを打ってみよう。それから次にはどここのエリアということで、若干エリアを分けて広告を打つという仕組みも今考えております。特に新米あたりのシーズンになりますと、米子境港ではやはり日南の米というのは非常にネームバリューが高いですので、広告を打てば来ていただけるお客

さんもいらっしゃるのではないかという具合に思っておりますので、タイミングを見て広告を打っていきたいと思っております。

○山本委員長 近藤委員。

○近藤委員 当初からありましたけれども売れ残り野菜の対応は、この度順調にいったのか。量的な面も含めまして対策は十分にとられたのかどうなのかということと。それから前から言っておりますけれども加工品を皆様方に作ってもらうように、対応いかなる応援もしたり予算もついたりしてやってこられましたけれども。その販路を何とかして、ただ道の駅だけにとどまらん販売というのをやっていくという力強い声を聞いておったわけですからけれども。それに対する計画であったり予定等、今の段階でできておりましたら報告願いたいと思います。

○山本委員長 青葉課長。

○青葉農林課長 1番の農家の方の心配は、売れ残りというのがございます。正直なところ残るものはあります。確かにそれが廃棄という状態にならないようにというのは誰もが考える事でありまして、できる限りレストランの方に使っていただいたり、町内の飲食施設じゃないですが保健厚生施設というんですか、そのあたりとの連携とか取り持ってやっておりますけれど。農家の方もなかなか売れ残りを危惧する向きがございまして、どうしても山のごとく出るということが今の仕組み上できないと。我々もなかなかはっきり申し上げにくいところもあったりして。農家の方も自衛というわけではないですけど、出しても残ればというようなところを非常に危惧されております。私たちとしては物流の拠点をやはり道の駅におきたいということから、出てきたものは3日間の間に処分するんだという気持ちでおります。処分という言葉は失礼です。流通させたいと思って今やっておるところですが、現実的には広く販路もありますから、その辺は農家選択に任せておるところもございまして。ただ道の駅に中心の出し方をさせていただいておる方には、当然そのところをフォローする仕組みがあるという具合に考えておりますので、ちょっと今後も引き続き検討して参りたいと思っております。

○山本委員長 よろしいですか。古都委員。

○古都委員 直売所で果物が売れたというふうに書いてありますが、果物はどのようなものが日南町で生産されておるか教えていただきたいと思っております。

○青葉農林課長 果物は非常に少量だと思っております。売れたというんでしょう



けれども、農家の方も庭先で作っておられる果物とか特にブドウあたり、結構いろんな種類で持ち込みをしていただいたケースがございますから、果物として販売はいたしておるところでございます。

○古都委員 品目をもうちょっと詳しく教えてください。

○青葉農林課長 スイカ、ブドウ、りんご、珍しいところではポポが出ておるようでございます。

○山本委員長 よろしいですか。そうしましたら先程の近藤委員の質問で、加工品等の道の駅以外での対応ということで、答えていただいておりますのでお願いいたします。青葉課長。

○青葉農林課長 加工は、もう今のところ本当に課題としてとらえております。施設整備の方もできてきたという気はしておりますので、是非とも加工品の方にグループ活動等を推進していきたいと思っております。どういうんでしょうか非常に珍しいものから珍しい素材から、珍しい品物を作るというのはなかなか大変でありますけれども。やはりなじみの野菜をしっかり加工する仕組みが欲しいということで、冬場に向けて塩蔵野菜をもう1度見直さなくちゃいけないと思っておるところであります。できますれば日南の冠をつけた商品を作りたいと思っております。

○山本委員長 近藤委員。

○近藤委員 作るでなしに売り先のアイテムというか、開拓されておられる努力とかそういった計画はないわけですか。売り先です。

○山本委員長 青葉課長。

○青葉農林課長 現状としては道の駅に展示をせずアピールをすると。総量的に取り扱いができるだけの商品がありませんので、そこは卵が先か鶏が先かになるんですが、やはり商品を準備をしないと先が難しいと思っております。

○山本委員長 よろしいですか。古都委員。

○古都委員 先程の説明でりんごというのが言われたわけですがけれども、産地は8月までにできるりんごあたりはどこで作っておられるんですか。

○青葉農林課長 私が把握しておるのは町内産だと思っておりますが。以上です。

○山本委員長 よろしいですか。その他ございますか。続きまして道の駅の冬期間の商品取り備えについて、お願いをいたします。青葉課長。

○青葉農林課長 明快な資料をご提出できずにお話をさせていただきたいと思いま

すが、冬場の品揃え対策というのは道の駅オープンを迎えるにあたって検討してきたところでございます。実際にこの冬はどのような形の商品が用意できるかというのが1つのポイントになるかと思っておりますので、当面は出荷者協議会の皆様方とも話をして、商品開発ということで力を入れたいということが1つございます。特に野菜につきましてはどうしても馴染みな野菜は不足するのは間違いないと思っております。我々も当然加工をしたり保存をしたりして冬場の野菜を各農家とも食卓にあげておるのが現状でございますから。できますればそういう形で雪の下の雪掘れの野菜のコーナー、それから保存野菜のコーナーというものをちょっと呼びかけをしたいと思っております。特に保存のきくといわれております大根白菜にんじんキャベツ白ネギあたりは、保存方法を研究してやっていきたいと思っておりますし、積雪地帯においては白菜あたりはどうしても花が開いたような形になって雪中での保存は困難だという話も伺っております。そういったしますと12月早い段階で収穫して保存しながら販売に向けてということもできるんじゃないかということでご提案を申し上げようと思っております。雪の下に保存をするというのも日南町でも古くからの食品保存野菜保存として慣習がありますから、そこから商品化に結びつけたいと思っております。それからもう1点は、手工芸品のスペースを増やそうということをお願いをしたいと思っております。道の駅には野菜もございますけれども手工芸を沢山作っていただいておりますので、そのスペースをちょっと広めて、他の加工品と合わせた木工芸手工芸のコーナーを充実させたいという具合に思っております。それから耐雪ハウスでの冬期間の野菜生産というのも前々からやってきたという歴史はございますけれども、それに暖房、木質のバイオマス暖房も今推進しておりますので、それらから商品を作っていくたいと思っております。それから加工品につきましてでございますが、平成27年度に道の駅オープンに向けて、町内から65品目の日南町オリジナルの加工品を作っていただいております。これらもやはり展示スペースを広めて冬期間に積極的にアピールして参りたいと思っております。それと餅と米のことでございますけれども、やはり日南町の1番の品目は米と餅でありますから、このあたりも集中してイベントを打ちながら販売をしたいと。MAも、この餅とか米については試食販売の土日イベントというものを積極的に展開をしたいという意向を聞いておりますから。それらも併せてやっていきたいと思っております。当面は10月9日に新米祭と名をうって道の駅での新米アピールのイベントを考えておるところでございます。それともう1つは食品加

工の中からレトルト食品の加工をということで、これは事業者からの要望もありますし今回の11月以降の研修会のテーマとしては、レトルト食品というものに取り組みを開始したいと思っております。それともう1つは、冬はやはり暖かいというコンセプトを前面に出したいということで、温かい試食品ということで。それはいろんなものがございませうけれども、おでんとか汁餅とか焼き餅とか、温かいものを提供できるようなテイクアウトの取り組みをしたいと思っております。いずれにしても10月4日出荷者協議会の役員会を開催し、冬期間の取り組みについてご相談申し上げて出荷者協議会の皆様方をお願いをして、商品開発いう形でやってみたいと思っております。ただこういう降雪地帯は何所とも非常に苦労しておりますので、それをやはり乗り越えるだけの情報提供をしないとなかなかお客様には来ていただけないということは重々承知いたしておりますので、日南町らしさが出せるものを作りたいと思っております。それと、この春新酒として日野川の郷というお酒を作りましたが、次年度に向けてもこのお酒のラインは残していきたいと思っております。以上いろんな切り口があって、やってみなくちゃいけないことだらけなんですけれども、いかに情報として提供しながら、日南町らしいそんなに背伸びをしないものでいいと私は思っておりますので、日南町らしいものを商品化できればいいなということで農家の皆様方の協力をお願いしたいという具合に思っております。以上です。

○山本委員長　　ただいまの説明につきまして、質問意見ございませうでしょうか、古都委員。

○古都委員　　今説明いただいたわけですが、以前の説明にも端境期というような言葉があったりとか、今から出荷者協議会と打ち合わせをしてということで説明をいただいたわけですがけれども、大体以前からお話しておりますが、もう1年も2年も前から練習しておくべきことを、今から会をするというような話なので非常に今心配をしたところです。それ以前の説明では、いわゆる広島方面とか米子方面に宣伝をしていくという話もあったわけですが。いわゆる体制を整えて宣伝をしないと、反対に宣伝が先行して来てみたらものがないと。これじゃあ評判を落とす宣伝になるわけですし、そこら辺が商売の1番難しいところだろうと思っておりますが、そこら辺についてはよく状況を見たり検討をしたりタイミングを計られんといけんと思っておりますが、副町長どうでしょうか。

○山本委員長　　中村副町長。

○中村副町長　　基本的に前段の話につきましては、特に経営者会議の中で先を読む形、いわゆる何ヶ月先に何をやるんだという計画をするという方向で進めておりますけれども、そこら辺がまだ十分でないというところは否めない事実かなと思っておりますので。その辺をしっかりと立てながら実践をした結果をまた検証しながらというサイクルの中で動きたいと思っております。あと情報提供のあり方についてはもちろんその通りだと思っておりますので、今後有効的な情報発信の方法ということも含めていろんな角度から検討していきたいと思っておりますし、できるだけどういまいしょうか長期的なことも、先程申し上げましたが長期的なやり方という事も視野には入れて今後展開をしていきたいと思っております。また色々ご指導いただければと思います。

○山本委員長　　よろしいですか。その他ございますか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○山本委員長　　ないようでしたらその他。全体を通して質問ご意見ございますか。  
恵比奈委員。

○恵比奈委員　　先程の1番最初の説明の中にお客さんのアンケートの中に、道の駅がわかりづらい駐車場に入りづらいという意見がありました。先日も米子方面から来られたお客さんが多里の方まで上がられて、道の駅を探しながら上がったけどどうしても見つけることができなかった。トイレにも行きたいのもう我慢して来たといって慌ててトイレに行かれたりしたんですけれども、家族連れでした。高齢者の運転が増えてといわれましたけれども若い方でした。若い方でもあそこがわからないと。ローソンがありましたでしょうと言ったらローソンはよくわかりましたと言われたんです。やっぱり道の駅の日野川の郷の旗もたっていますけれど、デザインですから、そういう色合いにならざるを得ないかもしれませんが、もう少しはっきりしたよくわかるような、ビビットとよくいいますけれども、もっと鮮やかな色でもっとわかるようにされるとか。それから看板は大抵道路標識の看板と同じ位置に全部ありますので、それだと視線がやっぱりいきづらい。車を運転していて目線のところに看板があるというのが1番よくわかると思いますので、もうすぐ道の駅だよ、何メートル先だよ、ここだよというふうに、よくわかるようにしないと。それでなくても駐車場にあんまり車も停まっていない時が多かったりすると、どこが道の駅かわからんということになると本当に惜しいと思いますので、そこらへんをもうちょっと根本的に考えて工

夫された方がいいと思います。それからレストランのことですけれども、レストランの評価も色々あると思いますが、狭いと、もう少し広くしたらという、建設当時の意見でもあれくらいがいいんだといわれて狭い所にされたので。1度にオープン時なんかお客さんが詰めかけられるとどうしても入れない。待っているうちに無くなる、早く入りたくてもまだ開店じゃありませんので入れませんとかいって足止めを食って、とうとう食べるものが無くてつまらんかったわ、という声も結構聞きました。聞いてみたら保健所の許可の関係が難しいという事を言われたんですけれども、あのテラスに持って出て食べるんだというようなことを色々いわれとったように思うですけれども。あれがやっぱり仕切られた空間でないので、衛生上保健所の許可がおりないと。だったら献立を変えて、テイクアウト用の献立を作られて、仕出しの許可でもたぶんあったら持って帰って食べられても別にいいわけですから。そういうふうに工夫されて、おにぎりセットとかもう何でもいいですので、あの辺の前に天気の良い暖かい日だったら持って出て食べられるようにするとか。それから店内で売るものも、レストランで作られていいわけですし一般の出荷者の方がされてもいいわけですけれども、どこの道の駅に行っても柔らかいつきたてのお餅とか、ご飯物とか、いろんなすぐ食べられるものが売ってあるわけですけれども、それもほとんどありませんよね、全然とっていいほど。真空パックしたお菓子もいいかもしれませんが、すぐ食べられる作りたてのものというの、特に土日を中心に検討された方がいいと思います。

○山本委員長　　どなたか。青葉課長。

○青葉農林課長　　私もレストランの方向回か使わしていただいておりますけれども、確か昨日遭遇をいたしたのは外のテラスに持って出て食べていただいているお客さんを見ましたので、そういう取り組みはできるんじゃないかと私は思いました。それは確認をして、是非とも外で、天気のいい時には外で食べていただくような仕組みもできると思っておりますので補足しておきます。

○山本委員長　　木下課長。

○木下企画課長　　今のレストランの件につきまして貴重な意見ありがとうございました。店内でのお客様の流れ等につきましても、経営者会議の中でも色々意見を出し合いながら改善をしていきたいと思っております、テイクアウトができるメニューというふうな話も前回ちょうど話も出ておりました。色々意見をいただきながら少しでも改善していくように検討していきたいと思っております。中のお客様の流れに

つきましても、もっと改善の余地があるのではないかという意見を色々とさせていただきながら、改善を図っていきたいと思います。それで看板につきまして、これもアンケートを含めて、道の駅の従業員の方からも探して苦労してきましたというお話を聞きましたという話はいくつか聞いております。やはり浅田専門監も申しましたけども、道路標識と同じ色合いで作ったものの看板がこの周辺は主流になっておりまして、どうしても見落としがあるのかなど。大きさは結構な大きさで、知っている者が見ると結構な大きな看板だなとわかるんですけども、見落とされるのではないかなと思っております。こちらにつきましても経営者会議の中でどうやったらいいのかという事で今検討しております。いずれにしても改善をするという事になりますと予算を伴うような改善になろうかと思しますので、その辺は慎重に協議をさせていただきまして、またお願いすることがあるかもしれません。よろしくお願ひしたいと思ひます。

○山本委員長　道の駅をカーナビの中で表示できますかね、今。新しいのでないと無理ですか。浅田専門監。

○浅田専門監　オープンの時に何社か照会がありまして、カーナビに登録したいからということで住所とか平面図を教えてくださいということがありました。カーナビの方の対応、新しいカーナビはできると思ひますけども、やはりそこはソフトの問題ですので、新しいソフトを入れないとなかなか出てこない可能性はあると思ひます。

○山本委員長　スマートフォンのナビがありますよね、よく使われる。あれはできるんですか。浅田専門監。

○浅田専門監　会社名を出してあれですけども、Google とかのマップとかでは、名前が出てくると思ひます。ただ写真とかがアップしてあるかどうか、例えばグーグルアースとかでは出てくるかもしれませんが、ストリートビューでは写真とか載っているんですけども。そこに施設が、こういったような地図的なものではちょっとどうかと思ひますけども。あるのは、載っているのは確認しました。

○山本委員長　その他ございますか。

○久代副委員長　桃太郎旗の事だけですけども、春夏秋冬季節を変えて、要するに白抜きで道の駅デザイン上のこともあるんですけども、やっぱりきっちりパツとわかる、同じ作るならその方がいいと思ひますよ。そんなに旗自体は安いもんですから、桃太郎旗は。やっぱりある程度デザインを変えていかれることを、私は同じ旗をずっとたててるのではなくて、やっぱり季節感も取り入れた工夫が欲しいなと思ひます。よろしく。

○山本委員長 近藤委員。

○近藤委員 あの桃太郎旗ね、中から出てくるのに、上を見るのに、本当車がものすごく見にくいんですよ。あれって本当どの程度必要なんだろう。もう中の集荷場の方から出てくるのに、上を見るのに、もう本当車だいぶ前に出ないと、上からの車が見えないという状態なんだけれども。そういった苦情はないわけですか。今まで。

○山本委員長 浅田専門監。

○浅田専門監 実はそういった苦情といいますか、なかなか見にくいのも職員の方もやっぱり認知しております。ですので以前よりちょっと間一本を抜いた、間引いた状態で今つけておるんですけれども。その辺が、実際にはあまりつけない方が中の施設も見えていいんだよということであれば、もう少し減らすという工夫もやったりして、皆さんの様子を見てみたいなどは思っております。

○山本委員長 よろしいですか。全体を通して質問意見残りがありませんでしょうか。ないようでしたら、本日、EVIに関する資料7月8月の違いという事と、日南トマトの販売数という事でデータをいただくという事と、加工実習施設の使用者の実団体についての報告という事と、最後の直売所品目別売上というところの生産者の品目ごとの登録者数という事の資料をお願いしたいという事であります。以上漏れはありませんか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○山本委員長 資料をお願いいたしまして、本日の会議を閉じたいと思います。お疲れ様でした。

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

平成 年 月 日

委員長

副委員長